

2005年2月28日

各位

上場会社名 中外製薬株式会社  
コード番号 4519 (東証 第一部)  
本社所在地 東京都中央区京橋2-1-9  
代表者 代表取締役社長 永山 治  
問い合わせ先 責任者役職名 広報・IR部長  
氏 名 籠島鎮男  
電話番号 03(3273)0881

## 中外製薬 生産体制の再編と分社化に着手 －5～6年後を目途に現有5工場を2工場に集約－

中外製薬株式会社〔本社：東京都中央区／社長：永山 治〕（以下、中外製薬）は、この程、生産機能の徹底した効率化と資源の集中化を目的とした生産体制の再編に着手し、現有する国内5工場を、5～6年後を目途に宇都宮工場（栃木県宇都宮市）と藤枝工場（静岡県藤枝市）の2工場に集約することを目指すとともに、2006年1月（予定）をもって生産部門を一括して分社化することを決定しましたので、お知らせいたします。

また、2月25日に開催された取締役会において、本再編に先駆け、医療用の固形剤・軟膏剤を中心に生産している鏡石工場（福島県鏡石町）を、2005年6月末（予定）をもってニプロ株式会社〔本社：大阪市北区／社長：佐野 實〕へ譲渡することを決定し、本日、ニプロ株式会社との間で譲渡契約を締結したことを併せてお知らせいたします。

中外製薬は、2002年10月のロシュ社との戦略的アライアンスを契機に、コストシナジー（コスト構造の改善）の極大化に向けた取り組みを強化し、翌2003年に高岡工場（富山県高岡市）、松永工場（広島県福山市）を譲渡・閉鎖して5工場体制に再編するなど、これまでの間、品質、コスト面における競争力強化を図ってきました。

しかしながら本年4月の改正薬事法の施行により、今後、医薬品生産を取り巻く環境はますます大きく変化することが予想されます。すなわち、全面的な製造委・受託が可能となる環境下、品質・技術力を備えた製造受託メーカーが台頭することで、新薬メーカーとの医薬品生産機能の相互補完関係が強まると同時に、新薬メーカーにとっては、こうした製造受託メーカーとの連携の巧拙が、自社技術の維持・強化と効率的なコスト構造の構築に多大な影響をもたらす可能性が出てきたということです。

今回の生産体制の再編着手は、こうした環境の変化を踏まえた中で、本年を起点とした中期経営計画『Sunrise2010』の最重要課題の一つである、自社技術の維持・強化とコスト効率の追求に向けて現状最善の方法として決定されました。この決定により今後は、固形剤の製剤・包装機能を中心に外製化を推し進めると同時に、自社工場については宇都宮・藤枝の2工場に経営資源を集中していくこととなります。

具体的には、宇都宮工場に浮間工場（東京都北区）のバイオ原薬製造機能、無菌注射剤製造機能などを移管することで、中長期的には同工場をバイオ医薬品の原薬・製剤一貫工場へと整備していきます。宇都宮工場はこれまで、抗体医薬の生産拠点として他社に先駆け投資をしてきた結果、

2007年には、合計8万リットルという国内最大級の動物細胞培養設備を擁する工場になります。この、日本はもとより世界からも注目を集めつつある宇都宮工場にバイオ医薬品の原薬・製剤機能を集約することで、中外製薬を一層の競争優位に導く自社技術の維持・強化を追求していきます。

一方、藤枝工場には、浮間工場、鎌倉工場（神奈川県鎌倉市）から自社で製造を続ける高活性品を中心とした固形剤製造機能などを移管することで、同工場を合成医薬品の原薬・製剤一貫工場へと整備していきます。藤枝工場は1971年の操業当初から胃炎・消化性潰瘍治療剤「スクラルファート」の原薬製造拠点として、米国FDAによる査察を常にクリアするレベルを保持するなど、機能の全てを国際基準においた品質保証体制の確立に注力してきました。

この計画を推進するため、藤枝工場に対しては本年から2008年にかけて約200億円の資金を投入し、最新鋭の固形剤生産ラインならびに関連設備の建設・整備を進めます。拡張性の確保が容易な立地を活かし、徹底した省人化を実現するマテリアルハンドリングの確立、環境対応、海外レギュラトリー対応、グローバルなローコスト競争、などといった課題に的確に対応するのが、その建設コンセプトとなります。

また、浮間工場と鎌倉工場については宇都宮、藤枝への機能移管の進捗を見ながら、5～6年後を目途に閉鎖し、その跡地については社内で再活用していく予定です。

なお、鏡石工場のニプロ株式会社への譲渡の詳細については、別途、ニプロ株式会社との共同リリースを参照願います。

こうした一連の工場再編の取り組みと平行して、2006年1月を目標に、生産部門の大半の機能を分社化します。新たに誕生する生産会社は中外製薬の100%出資の関係会社とし、従来どおり中外製薬の生産機能を担いますが、分社化することの価値を最大限に発揮し、生産に特化した企業特性に基づく事業運営と人事制度の確立を通じて“ものづくり”のキーとなる人材の育成に努めるなど、主としてソフト面での生産体制の再編・強化の役割を担っていくことになります。

中外製薬は、2工場への集約に加えて、同一工場内で原薬・製剤を一貫して扱うことで各製品特性に合わせた規制対応や、技術・品質・コスト競争力の強化を図るなど、新薬メーカーの特質を生かす工場再編の取り組みと、ソフト面を重視した生産部門の分社化とを一体で推し進めることで、医薬品製造機能の生産性を高め、もって中外グループトータルとしての競争力強化を図っていきます。

なお、生産新会社の名称を含む詳細については、決まり次第改めて案内する予定です。

以上

## 【ご参考】

### 宇都宮工場：

所在地	栃木県宇都宮市清原工業団地16-3
敷地面積	約122,000m <sup>2</sup>
事業内容	バイオ医薬品の生産
主たる製造品	エボジン注、ノイトロジン注
従業員数	186名

### 藤枝工場：

所在地	静岡県藤枝市高柳2500
敷地面積	約218,000m <sup>2</sup>
事業内容	合成医薬品の原薬生産
主たる製造品	アルファロール原薬、シグマート原薬
従業員数	73名

### 浮間工場：

所在地	東京都北区浮間5-5-1
敷地面積	約66,000m <sup>2</sup>
事業内容	バイオ医薬品の原薬生産
主たる製造品	エボジン原薬、ノイトロジン原薬
従業員数	215名

### 鎌倉工場：

所在地	神奈川県鎌倉市梶原200
敷地面積	約81,000m <sup>2</sup>
事業内容	医薬品の生産
主たる製造品	タミフル、ゼローダ
従業員数	166名